

22 世紀八幡ルネッサンス運動（略称：八幡ルネ）企画作業チームニュース	
ひ る ば	
八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とうるおいある生活と文化を享受するように努める。	
■発 行：22 世紀八幡ルネッサンス運動 企画作業チーム ひろば編集部	■事 務 所：八幡市八幡高畑 10-76 TEL/FAX075-981-6505 090-3710-4842
■橋本連絡所：八幡市橋本興正 7-4 075-971-9488	
■男山連絡所：八幡市男山指月1-12 080-3780-6140	
■川口連絡所：八幡市川口東扇 1-4 080-3775-8133	
■振 込 口 座：京都中央信用金庫八幡支店 普通 5243582 22 世紀八幡ルネッサンス運動	

目的

八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とうるおいある生活と文化を享受するように努める。

「こもれびルート」の再開を！
署名活動をするなかで思うこと

突然、男山の「こもれびルート」が廃止されることを、私たちは4月の市広報紙で知らされました。そのことは当然驚きと共に様々な憶測が広がりました。「山で蜂に刺された人がいる?」「タケノコを取る人がいるから?」、噂は一人歩き……。

男山の自然を散策する3つのルートが設定されたのは、かなり以前のことになります。「こもれび・せせらぎ・ひだまり」の3ルートは市民の散歩道だけでなく、今や近畿一円から森を楽しむ人々が多く訪れるようになっていきます。どうして?と誰もが思うところです。

京阪電車の石清水八幡宮駅を降りて5分歩けば、もうそこはいきなり新緑の森・谷に入れるのです。高木のモミジやケヤキ、セシダン、スギ、タラヨウ、そしてその林床には珍しい様々な植物群が目を楽しませてくれます。ひきめの滝からの清流があり、男山ケールを仰ぎ見る景観はまさに絶景です。「駅前溪谷」として人気のスポットになっています。この谷や森は、およそ25年前に神応寺に入られた曹洞宗の大木祖浄ご夫妻が、寺の再興と共に丹精込めて整備をされ、現在に至っています。

「こもれびルート」の入り口はこの谷から始まります。アーコレイド桜や御衣黄、右近をはじめ、数種の桜を眺めながら山道を上ると、男山三角点のある鳩が峰（143m）へ至ります。そこから八幡宮の参道へと続いていきます。

山歩きが好き、京都の自然観察には欠かせない場所等々、多くの方が愛好の道とされていて、再開を望む声が広がるの

は当然のことです。市の説明にあるように、森の道の安全や保全活動が十分にされることは必須。さらに、歩く側のマナーも大事なことです。これらのことをふまえながら、このルートをぜひ再開してほしいものです。

このルートの人気に大きく貢献されてこられた神応寺のご住職が、病気のためお亡くなりになりました。この春のことです。【曹洞宗神応寺50世再興】尊称が、本山より贈られました。昔からモミジ祭りとして寺を開放し、本堂・書院等を見せていただけてきました。「この景色は八幡の宝やさかい、年に一度は皆さんに見てもらわんと!」が、お二人の口癖でした。毎年、ご自身のお小遣いから花木の苗を買い求め、山を育ててこられました。その一つはご存じのアーコレイド桜です。駅から見上げるこの木は、すでに15年が経過し春秋と駅前の景観をつくっています。シャクナゲ、アジサイ、牡丹、椿、シヤガ等の開花時には多くのカメラマンが集う場所にもなっているのです。谷の清流には、ご夫妻が生物多様性のためにと育てている生き物も生息するようになりました。大木夫妻の功績で、今の森と谷があることを忘れないでいたいものです。

ルート廃止になる3月はじめのこと、不尊重の前にあるルート案内板を行政の人達が乱暴に引き抜かれにいられたことがありました。「ここにこんな看板があるからやー」。30年近く立てられていた看板です。方丈様が治療のため入院中の時のことでした。奥様は怒りと涙で、この時の様子を語ってくださいました。男山の森は自然環境の保護とともに、その恩恵を楽しめるように、具体的に何が必要なことかも考えていきたいものです。

2023・5・31 N/F

フローム・ロード
VOL.22 2023・5・24
1本の草を抜くだけの努力を
認めてはやれないだろうか

広い地域を清掃するには、なにかと工夫がいる。清掃を徹底してやるか、徹底してやることになれば、そこは綺麗になったけれど、振り返ってみて、あそこも少しやりたかったと反省する気持ちも生まれる。しかし、どうさばいたらいいのか、特効薬のないのが現実である。

草刈りのランクはいくつある。一番目は適当にむしる、二番目は剪定バサミで刈る、三番目は刈った雑草を回収まで行う、四番目は徹底除草し回収する。

刈った草は回収まで行う、というのは一般的な見方だ。しかし、決めつけないほうがいいのではないかと思う。むしろ草をその場に置く例は少なくない。そこにはいろんな事情がうかがわれる。好意的に見てはどうだろうか。1本の草を抜くだけの努力を認めてはやれないだろう



↑赤色の点線がこもれびルート
(八幡市役所ホームページより)

か。異議を唱えるのも一つの道だが、気づいた人、気になった人が回収したほうが手っ取り早くて効果的ではないだろうか。伊藤代表は「抜いて置かれた雑草を、たくさん回収している」と言っている。気になった抜かれた雑草を、どこかで回収する協働の精神が生まれてもいいのではないだろうか。

夏に向かうこの時期、雑草の伸びは驚異的だ。1週間で10センチも20センチも伸びる。私たちの清掃は、完璧に期すというのは稀だ。だいたいにおいて、適当になってしまふ。それゆえに傍目には「おや?」と思うこともあるかもしれない。それは、力不足の私たちがお手伝いを求めるシグナルとして、もし捉えていただけるなら、まことにこれに勝る幸せはない。

私たちは、ボランティアという無償の活動を行っている。不安定な立場だ。気持ちひとつで、右にも左にもなれるのだ。だから、温かい言葉はなによりもうれしい。長く続けてこられたのは、みなさんのお陰なのかもしれない。

大谷川清掃レポート

2023・5・30

ネジバナ

ネジバナ（捩花）は、ラン科の多年草で、別名：文字摺（モジズリ）と言います。花を螺旋状につけるランの仲間で、明るい草地や芝生に生えます。

茎に対して、花を螺旋状に花が咲くことで重心が安定して細い茎でも直立しやすくなります。花は横向きに咲くので、ハチには都合よくなりませう。螺旋の右巻き、左巻きは遺伝的に決まっていないうで、どちらも存在します。

ネジバナには、小さなハチに花粉を運ばせる巧妙な仕組みを備えています。花粉塊（花粉の袋詰め）といった雄蕊と雌蕊が合体した蕊柱（ずいちゅう）をつくり、花粉塊を隠しています。花にもぐり込み蜜を吸ったハチが花から出ようとすると、花粉塊が頭に貼りついてしまします。花粉塊が持ち去られると、雌蕊が露出して花粉を受け入れる準備完了です。花粉塊をつけたハチがやってくると粘着力



をもった雌蕊に触れ、花粉塊の袋が破れ受粉が成立します。

多くの植物は受粉が成立すると、胚と胚乳をつくりませう。しかしラン科の植物は、胚乳をつくることをやめた無胚乳種子です。ネジバナの実は長さ6ミリほどですが、その中に数万〜数十万個の種子がぎっしり詰まっています。受粉した花粉塊の中に種子の数以上の花粉が詰まっていたことになります。

種子が育つための胚乳をもっていないラン科の植物は、外部から栄養を調達しなければなりませう。ラン菌（ランの共生菌）に助けを求めます。ラン菌と共生することによって種子を小さくできたのです。

しかし光合成で栄養を賄えるようになると、ラン菌の菌糸を分解し、自分の養分に吸収してしまします。ラン科植物の種子は、ラン菌がないと増殖や交配が難しく以前は高価でした。今ではバイオテクノロジーの進歩により、安価で手に入るようになりました。

下野医院付近の橋から安吾橋までの間の川の植物が刈り取られ、土壌などが見える状態になっていました。今後この状態からどのようにに変化していくのか、観察しようと思います。

5月28日の第170回山路大谷川清掃は、7名の参加で土嚢袋141袋を回収しました。



【第171回

山路・大谷川の清掃のご案内】

■日時：6月25日（日）

午前9時半〜正午（雨天中止）

■集合：旧あずま屋

（コノミヤ裏八幡源氏垣外）

※会場設営にご協力いただける方は、集合時刻の30分〜1時間前に現地にお集りください。

※用意して頂く物：厚手の手袋。その他の必要な物は用意します。

【第91回

舞台・大谷川の清掃のご案内】

■日時：7月2日（日）

午前9時〜11時半（雨天中止）

■集合：大谷橋下流の休憩所

（ベンチあり）

※会場設営・用意して頂く物は山

路・大谷川と同様です。

《主催》NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

連絡先：八幡市八幡高畑10-6

Tel 075（981）6505

携帯090・3710・4842

運動と協会

22世紀八幡ルネッサンスは、「運動」と「協会」という2つの活動ステージを持っています。22世紀八幡ルネッサンス運動が下部構造で、NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会が上部構造と言えるかもしれません。運動が基盤にあり、清掃活動から街の美化を、そして環境、文化を考える、清掃活動から広がる市民運動の推進を目的としており、協会の方は運動の方針を踏襲して、法人組織として環境や文化など幅広い分野でイベントや講座などに具現化していきませう。

運動では毎月第2火曜日午前中に「企画作業チーム部会」が開かれ、毎月の道路清掃の活動状況と成果、大谷川の清掃活動状況と成果、中ノ山墓地の清掃状況と成果、その他の動きが報告され、議論されます。また、会計報告では空き缶や鉄くず回収と寄付金による収入と、活動費などの支出を網羅した収支報告も行います。

協会では毎月第4火曜日に「理事会」が開かれます。ここでは大

谷川の清掃活動の報告と告知のほか、運動と協会の定期刊行物の発送業務を行う「わいわい発送塾」の協力者、配達協力者の報告、八幡市民文化サロン、「きずな」などの報告と告知のあと、新たな動きや今後の活動を議題にして議論します。

現在、運動も協会もメインの議題は3月に開催した「エコを考える 三世代交流イベント」の報告集の制作・発行（報告集編集委員会による）、来年に向けて開催が決定された「三世代交流イベント」について、さらに「大谷川生き物調査」や「大谷川サミット」の開催についてもこれから議論される予定です。

というわけで、22世紀八幡ルネッサンス運動とNPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会は表裏一体、運動と協会それぞれの役割を活かして相乗効果を狙っています。一人では不可能なことでも、集まればできる！

みなさんも力をお貸しください。

1998年1月 運動が起こる
2013年9月 協会を設立

●主な発行物

運動…「事務局便り」
「ひろば」

協会…「きずな」文化サロンなど
イベントチラシ